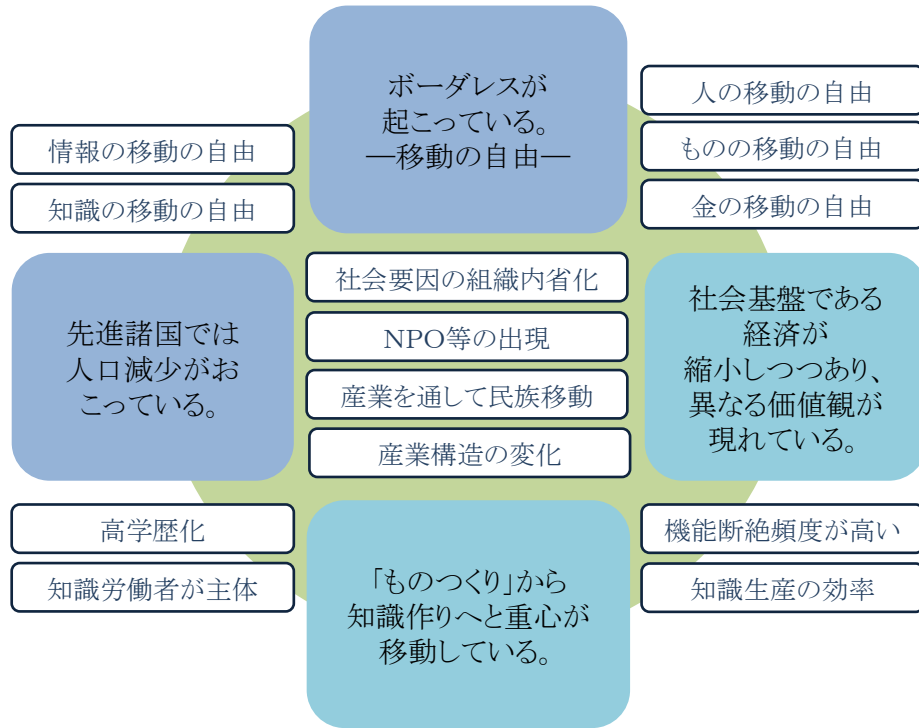


人類が初めて経験する事柄が起こっている



世界中の大半の所は24時間内で行ける。世界のニュースが、一瞬に伝わってくる。情報、知識の伝達では、時間と距離がゼロになっている。

現在は、経済社会、機能社会、知識社会、情報社会と言われている。多数の組織体は、社会の多数の機能を果たしている。組織なくして社会が成り立たない。企業である組織体が一つの機能を自立して果たしている。大半の人々は、知識と技術を持って組織に属し、機能の一役を担っている。知識なくして、社会は維持できなくなっている。

先進諸国での人口減少は、初めてである。人口が増え続けて、社会、経済が発展してきた。寿命が延び、セカンド・キャリアが実態化している。

情報、知識の伝達で、時間と距離がゼロになり、あらゆるものが刺激される。変化が激しくなる。アイデアが至るところで生まれる。あらゆる機会が多く現れる。疑似体験が急増する。正と負の現象が同時に現れる。正と負の認識が逆転する場合がある。

正統性に対する認識が変化する恐れがある。制度上の社会変化が起こり易くなっている。

知識混合が激しくなり、知識発展の速度が上がっている。

知識が仕事に影響するようになり、知識が仕事を動かすようになった。高学歴化して、社会を知識が動かす。知識労働が急増した。労働形態が多様化し、変化している。アウトソーシングの範囲が広がり、かつ高度化している。如何なる形に移行していくかは、まだ明瞭になっていない。

NPOが急増している。社会事業が増えつつある。企業が社会の問題に取り組みざるを得なくなっている。経済が基盤になっているが、経済を取り扱うだけでは済まなくなった。知識の発展に伴い、新しい産業が興る。

労働人口での知識活用が増え、知識のレベルによって産業が変化する。知識が資源となり、知識生産性が言われるようになった。

人々はシンボルを必要とする。政治などのシンボルではなく、目指すべきもの、シンボルである。ジェントルマンは一種のシンボルだった。

始めは宗教人だった。時代が進むに従って、宗教人から知識人へ変わった。そして、経済人へと移った。すでに、経済人から変わり始めている。いまだ、次は明瞭になっていない。

知識が資源になっている。知識が事業を越し、社会を動かす。「ものづくり」がなくなりはないが、「ものづくり」から「知識づくり」に代わっている。

現在は変化の時代である。

◆社会で、変わりつつあるモノを見いだしておこう。まず、現在を記録する。気付いたところだけでよい。如何なる変化を見せるのかを考えてみる。そこに、自らが活動していく機会が発見できるはずである。